【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成18年3月16日(2006.3.16)

【公開番号】特開2003-321602(P2003-321602A)
【公開日】平成15年11月14日(2003.11.14)
【出願番号】特願2003-23307(P2003-23307)
【国際特許分類】
*Ｃ０８Ｌ　67/04　(2006.01)*
*Ｃ０８Ｋ　5/1515　(2006.01)*
*Ｃ０８Ｋ　5/29　(2006.01)*
*Ｃ０８Ｋ　5/353　(2006.01)*
*Ｃ０８Ｋ　5/357　(2006.01)*
*Ｃ０８Ｌ　59/02　(2006.01)*
*Ｃ０８Ｌ　101/16　(2006.01)*
【ＦＩ】
Ｃ０８Ｌ　67/04　ＺＢＰ
Ｃ０８Ｋ　5/1515
Ｃ０８Ｋ　5/29
Ｃ０８Ｋ　5/353
Ｃ０８Ｋ　5/357
Ｃ０８Ｌ　59/02
Ｃ０８Ｌ　101/16

【手続補正書】
【提出日】平成18年1月27日(2006.1.27)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】　ポリ乳酸樹脂、ポリアセタール樹脂およびエポキシ化合物、オキサゾリン化合物、オキサジン化合物、カルボジイミド化合物から選ばれる少なくとも一種のカルボキシル基反応性末端封鎖剤を溶融混練してなることを特徴とする樹脂組成物。
【請求項２】　前記ポリ乳酸樹脂およびポリアセタール樹脂の合計を１００重量部としたときに、前記ポリ乳酸樹脂の含有量が９９重量部以下５０重量部以上であることを特徴とする請求項１に記載の樹脂組成物。
【請求項３】　前記ポリ乳酸樹脂およびポリアセタール樹脂の合計を１００重量部としたときに、前記ポリアセタール樹脂の含有量が９９重量部以下５０重量部超であることを特徴とする請求項１に記載の樹脂組成物。
【請求項４】　前記ポリ乳酸樹脂およびポリアセタール樹脂の合計を１００重量部としたときに、前記カルボキシル基反応性末端封鎖剤の量が１０重量部以下０．０１重量部以上であることを特徴とする請求項１～３のいずれか１項に記載の樹脂組成物。
【請求項５】　樹脂組成物中のポリ乳酸樹脂とポリアセタール樹脂が相溶化していることを特徴とする請求項１～４のいずれか１項に記載の樹脂組成物。
【請求項６】　樹脂組成物のポリアセタール樹脂由来の降温時の結晶化温度が、用いたポリアセタール樹脂単独の降温時の結晶化温度よりも低い温度であることを特徴とする請求項１～５のいずれか１項に記載の樹脂組成物。
【請求項７】　前記ポリアセタール樹脂がポリアセタールコポリマーであることを特徴と

する請求項１～６のいずれか１項に記載の樹脂組成物。
【請求項８】 前記カルボキシル基反応性末端封鎖剤が、グリシジルエーテル化合物、グリシジルエステル化合物、グリシジルアミン化合物、グリシジルイミド化合物、脂環式エポキシ化合物の少なくとも一種であることを特徴とする請求項１～７のいずれか１項に記載の樹脂組成物。
【請求項９】 さらに反応触媒を含有することを特徴とする請求項１～８のいずれか１項に記載の樹脂組成物。
【請求項１０】 さらに金属不活性化剤を含有することを特徴とする請求項１～９のいずれか１項に記載の樹脂組成物。
【請求項１１】 請求項１～１０のいずれか１項に記載の樹脂組成物からなる成形品。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
すなわち、本発明は、ポリ乳酸樹脂、ポリアセタール樹脂およびエポキシ化合物、オキサゾリン化合物、オキサジン化合物、カルボジイミド化合物から選ばれる少なくとも一種のカルボキシル基反応性末端封鎖剤を溶融混練してなることを特徴とする樹脂組成物を提供するものである。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１４】
なお、本発明の樹脂組成物においては、
前記ポリ乳酸樹脂およびポリアセタール樹脂の合計を１００重量部としたときに、前記ポリ乳酸樹脂の含有量が９９重量部以下５０重量部以上であること、
前記ポリ乳酸樹脂およびポリアセタール樹脂の合計を１００重量部としたときに、前記ポリアセタール樹脂の含有量が９９重量部以下５０重量部超であること、
前記ポリ乳酸樹脂およびポリアセタール樹脂の合計を１００重量部としたときに、前記カルボキシル基反応性末端封鎖剤の量が１０重量部以下０．０１重量部以上であること、
樹脂組成物中のポリ乳酸樹脂とポリアセタール樹脂が相溶化していること、
樹脂組成物のポリアセタール樹脂由来の降温時の結晶化温度が、用いたポリアセタール樹脂単独の降温時の結晶化温度よりも低い温度であること、
前記ポリアセタール樹脂がポリアセタールコポリマーであること、
前記カルボキシル基反応性末端封鎖剤がグリシジルエーテル化合物、グリシジルエステル化合物、グリシジルアミン化合物、グリシジルイミド化合物、脂環式エポキシ化合物の少なくとも一種であること、
さらに反応触媒を含有してなること、
さらに金属不活性化剤を含有してなること、
が、いずれも好ましい条件として挙げられ、これらの条件を適用した場合には一層優れた効果の取得を期待することができる。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２８】

本発明で使用するカルボキシル基反応性末端封鎖剤としては、ポリマーのカルボキシル末端基を封鎖することのできる化合物であり、ポリマーのカルボキシル末端の封鎖剤として用いられているものを用いることができる。本発明においてかかるカルボキシル基反応性末端封鎖剤は、ポリ乳酸樹脂の末端を封鎖するのみではなく、ポリ乳酸樹脂やポリアセタール樹脂の熱分解や加水分解などで生成する乳酸やギ酸などの酸性低分子化合物のカルボキシル基も封鎖することができる。また、上記末端封鎖剤は、熱分解により酸性低分子化合物が生成する水酸基末端も封鎖できる化合物であることがさらに好ましい。

【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２９】

このようなカルボキシル基反応性末端封鎖剤としては、エポキシ化合物、オキサゾリン化合物、オキサジン化合物、カルボジイミド化合物から選ばれる少なくとも１種の化合物を使用する。